



## ●「クロスブリーディング導入に向けた講習会」を中標津町で開催！ 《中標津

支所 営農支援室》

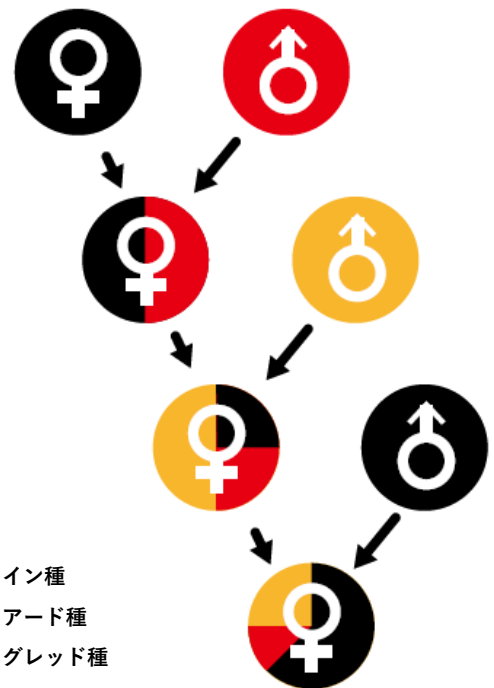
根室管内 5JA では乳牛の生涯乳量、長命性などの向上に向けて、乳牛のクロスブリーディング（アグリポート9号参照）についてプロジェクトチームを立ち上げ検討を行っています。2月25日に根室管内組合長会の主



催により「クロスブリーディング導入に向けた講習会」が中標津町で開催されました。

講習会ではプロジェクトチームによる米国での視察研修や農研機構からの学術的な見解（モンベリアード種の産道が安産性をもたらすことが想定される等）、訓子府実証農場による同農場で生まれたホルスタイン種とモンベリアード種のF1の生育経過などについて、生産者をはじめとした関係者の方々に説明が行われました。

今後も、プロジェクトチームでは生産者への丁寧な説明に努め、乳牛の改良に向けた検討を取り進めていく方針です。



- ホルスタイン種
- モンベリアード種
- バイキングレッド種

クロスブリーディングの例（アグリポート9号より）

## ●岩見沢で「空知スマート農業セミナー」を実施 《岩見沢支所 営農支援室》

岩見沢支所では、管内の生産者や JA 職員を対象とした、酪農に関するスマート農業セミナーを開催しました。

セミナーでは、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の吉岡氏より「ウェアラブルセンサと人工知能を活用した家畜疾病の早期発見技術について」と題し、講演を実施。既に市販されているウェアラブルセンサの説明や現在開発中の体表温センサおよび多機能腔内センサの紹介がありました。体表温センサは、産後の乳房炎や胎盤停滞、急性子宮炎を発見しやすい利点があり、多機能腔内センサは AI のニューラルネットワーク※により発情検知性能が高く、それぞれ 2020～21 年に販売予定です。

そのほか、アシストスーツ（サポートジャケット、タスカル、ラクニエ）の説明や試着会も行い、参加者たちは講師の説明に熱心に聞き入っていました。

※ニューラルネットワーク：人間の脳内にある神経回路網を数理モデル化したもの。人工知能（AI）における基本的な仕組み。



### ●JA びらとり・JA 門別青年部合同研修会を開催 《苫小牧支所 営農支援室》

3月6日（木）JA びらとり富川支所において、JA びらとり・JA 門別の青年部合同の研修会が開催され、ホクレン営農支援センター村木主任技師を講師として「スマート農業の取組」について講習を行いました。

当日は両農協の青年部員 11 名と JA 事務局 2 名が参加。施設園芸・水稻・酪農など様々な営農を行っている参加者に対して幅広い分野のスマート農業の取組を紹介しました。村木

主任技師の話に参加者は皆熱心に聞き入り、活発な質疑応答がなされました。



### ●ニンジン黄化病について 《長沼研究農場 営農技術課》

人参葉部の黄化症状は様々な要因で起こりますが、写真のような赤～黄化が下葉にみられる場合、アブラムシ媒介性のウイルス病“ニンジン黄化病”が原因です（写真：左から上葉～下葉）。欧米では人参に発生する最重要病害の一つとして知られ、北海道でも広く発生していることが明らかとなっています。畑で越冬した感染人参の他、畦道の野良人参も伝染源となるため、これらの抜き取りや適期防除が効果的です。



### ●リモートセンシング技術を利用した可変施肥体系の比較 《訓子府実証農場

農産技術課》

可変施肥とは作物の生育に合わせて施肥量を細かく変える施肥技術のことです。また、リモートセンシングとはセンサやカメラで作物の生育状況などを調べる技術のことです。訓

子府実証農場では、平成 30 年産秋播き小麦の圃場で、3 種類のリモートセンシング技術 (①トラクター搭載型レーザー式生育センサ、②衛星、③ドローン) で得られたデータを元に可変施肥試験を実施しました。

その結果、いずれの試験区でも、生育のばらつきを小さくできることが確認できました。結果の詳細や、各機器に必要なコストなどについて、アグリポート 18 号に掲載していますので、参考にしてください。

【施肥 (量) 設定作業】



【可変施肥作業】



試験に使用したリモートセンシングと可変施肥の機器類 (アグリポート 18 号より抜粋)

●黒毛和牛試験の出荷成績 《訓子府実証農場 畜産技術課》

訓子府実証農場では、平成 29 年 5 月から黒毛和牛 10 頭にて「生産環境の改善および生産物の品質向上を目的とした肥育実証試験」を開始し、平成 30 年 10 月から平成 31 年 1 月までに出荷しました。配合飼料「黒一徹」を用いた一本化体系における飼養では、格付成績 A5(6 頭)60%、A4(3 頭)30%、A3(1 頭)10%、上物率 (A4 以上) 90%と非常に良好

な枝肉成績を得ました。

#### 黒毛和牛試験の出荷実績

	出荷体重	枝肉重量	BMS	ロース面積
試験した10頭の平均値	878kg	556kg	8.2	75.3cm <sup>2</sup>
平成29年度27ヵ月齢出荷 全国平均値 (参考)		494kg	6.9	61.7cm <sup>2</sup>



個体識別番号	08642-6842-4
父	勝早桜5
母の父	美国桜
母の祖父	勝忠平
月齢	27
出荷体重	966kg
枝肉重量	609kg
格付	A5
BMS	12

出荷した黒毛和牛の枝肉の一例

### ●スターチス・シヌアータの増殖用材料の定植 《園芸作物開発課》

外はまだ寒い3月11日、ホクレンで開発したスターチス・シヌアータ「紫龍」を温室に定植しました。今回定植した株は、増殖（組織培養）に用いる材料を採取するためのものです。今後、株が生長した後、適宜、組織を採取し、増殖に供する予定です。



園芸作物開発課では、視察受け入れも行っています。ご興味のある方は、園芸作物開発課まで。(Tel : 0123-88-1990)

## ●「ホクレン農業総合研究所情報交流会」を開催しました 《研究企画課》

2月19日(火)にホクレン本所にて、「ホクレン農業総合研究所情報交流会」を実施しました。これは、農業総合研究所で得られた試験研究成果のうち、現場で活用可能なテーマを紹介し、広く普及することが目的でした。



当日は、生産者やJA職員など77名が出席。各テーマの内容について多くの質問が寄せられました。なお、当日の紹介されたテーマは下記のとおりです。当日の資料などを希望される方は、研究企画課までご連絡願います。(Tel.011-742-5433)

### 平成30年度「ホクレン農業総合研究所情報交流会」紹介されたテーマ

- ① RTK-GNSSの距離別精度実証試験について
- ② 秋播き小麦におけるリモートセンシングから可変施肥までの体系比較について
- ③ 大玉トマトの6月定植における養液栽培システム「ういずOne」を用いた栽培実証試験について
- ④ ミニトマトの品種特性について
- ⑤ 北海道内で栽培可能な新たな園芸作物について(ズッキーニ、芽キャベツ他)
- ⑥ 馬鈴しょでん粉原料用品種「コナヒメ」について
- ⑦ 残留農薬検査業務について

## ●アグリポート 18号を発刊 《営農支援推進課》

4月1日にアグリポート18号を発刊しました。特集は「女性の農力」です。

編集部には「女性農業者をテーマにした特集を組んでほしい」「活躍している女性を取り上げてほしい」という読者の声が以前から多く寄せられていました。今回、満を持してこのテーマでお届けします。今は性別に関係なく、個人の能力や強みを生かす時代ですが、今回改めて「女性」に着目してみると、女性だから得意なことや女性だから苦労していることもあると感じました。男性にも女性にもぜひ読んでいただきたい内容です。

その他、「2019年営農のポイント」を北海道農政部の方々に伺いました。営農の参考にしてはいかがでしょうか。



発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. [einousiensuisin@hokuren.jp](mailto:einousiensuisin@hokuren.jp)